

マルチメディア言語教育研究部門

Multimedia Language Education Division

1 部門スタッフ

教授 細谷行輝

略歴：1977年3月 東京都立大学大学院人文科学研究科独文学専攻修士課程修了。同年4月 大阪大学助手。1980年4月 大阪大学講師。1987年4月 大阪大学助教授。1999年4月 大阪大学教授。2000年4月より、大阪大学サイバーメディアセンターマルチメディア言語教育研究部門教授。日本独文学会、日本ドイツ語情報処理学会(会長)、冠詞研究会(代表)、e-Learning 教育学会(会長)。

助教授 竹蓋順子

略歴：2000年3月 千葉大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了。2001年4月 文京学院大学語学教育研究センター専任研究職員。2002年4月 文京学院短期大学専任講師。2004年4月 文京学院大学専任講師。2005年4月より、大阪大学サイバーメディアセンターマルチメディア言語教育研究部門助教授。大学英語教育学会、外国語教育メディア学会、全国英語教育学会、日本教育工学会、関東甲信越英語教育学会、e-Learning 教育学会、各会員。

助手 大前智美

略歴：2001年3月 大阪大学大学院言語文化研究科博士前課程修了。2007年3月言語文化学博士号取得(大阪大学大学院言語文化研究科)。2004年4月より、大阪大学サイバーメディアセンターマルチメディア言語教育研究部門助手。日本独文学会ドイツ語教育部会、日本ドイツ語情報処理学会、阪神ドイツ文学会、英語コーパス学会、大阪大学言語文化学会、e-Learning 教育学会、各会員。

2 教育および教育支援業績

2000年4月より稼働している CALL 教室の維持

管理運営、CALL 教室で利用するためのソフトウェア・コンテンツの開発および整備、各種講習会などを通じて教育研究支援を行っている。

2.1 CALL 教室の管理運営

Windows XP クライアントを利用したマルチメディア授業環境を提供するための維持管理を行っている。

2.2 外国語学習のためのマルチメディア教材作成支援

CALL 教室で利用するマルチメディア教材およびビデオ教材などの作成、さらにこれらを利用した授業についての研究発表の支援などを行っている。

2.3 インターネットを利用した授業支援システムの開発と運営

CALL 教室だけでなく、インターネット接続環境のある学外でも利用できる Web 対応授業支援システム「WebOCM」の開発を行っている。特に、教師のための機能として、教師が独自に制作したホームページ教材を WebOCM に簡便に組み込める「ダイナミックメニュー」のシステム開発を進めている。例えば、Word 等で作成した文書ファイルを HTML に変換し、これをダイナミックメニュー化することにより、教材の学習履歴やテスト機能との連携を極めて簡単に実装できる仕組みとなっている。

また、学生のための機能として、自動弱点克服機能、「Self-Evaluation」の開発も行っている。これは、ワンタッチ辞書機能により辞書検索された単語が自動的に記録され、これらの単語について、学生自身がテスト問題を作成、システムの自動採点結果を受け、弱点を克服することに繋げる仕組みである。また、学生が作成したテストを公開し合うことにより、学生の学習意欲を刺激すること

にも繋がると考える。

2.4 CALL 教室利用のための講習会開催

CALL 教室を利用する教員・TA に対する利用講習会を各学期開始前に数度にわたり実施している。

2.5 CALL 教室活用のための検討会

言語文化研究科の兼任教員と共に CALL 教室の利用やマルチメディアの活用のための検討会を定期的に行い、CALL 教室の有効利用を促進している。

2.6 Web 教材の全学向けサービスの実施

アルク教育社の英語学習教材 NetAcademy (オンライン教材) を導入し、全学の学生及び教職員に向けてサービスを行っている。教材にはスタンダードコース (TOEIC 対策)、技術英語<基礎>コース、メディカル英語コース、ライティング<基礎>コース、Japanese Course (留学生向け) を用意しており、学生、教職員がそれぞれの目的にあった学習を行うことができる。

2.7 工学研究科「工学英語 I」の授業支援

工学研究科が行っている授業、「工学英語 I」ではアルク教育社の NetAcademy をカリキュラムに取り入れ、e-Learning を実施している。当部門では、この授業において、学習者の登録や履歴情報の抽出、その他、課題提出システムを提供する等、学習サポートを行っている。

3 研究概要

マルチメディア言語教育研究部門では、外国語の学習効果を高めるため、マルチメディアを利用した外国語教育システムの開発研究、及び授業実践を行っている。特にインターネットを利用した Web 対応授業支援システムの研究、開発を行っている。

3.1 Windows システムでの個別ユーザー毎の環境設定

現在、市販の授業支援ソフトを利用し、学生の出

席確認、教材配布等を行っているが、授業での教員からの要望 (遅刻する学生への対応や、個々の授業に応じた環境設定等) に応えるには十分とは言えない。この問題を解決するために、Windows XP の Active Directory に登録されたユーザー情報をもとにユーザーのログオン時間から出席・欠席・遅刻を判断し、かつユーザー毎の受講情報と結びつけることにより、個々の学生の学習環境をより使いやすいものにするをを目指す。

3.2 動画転送装置と Windows 端末システム管理ソフトの統合化

現状では、通常の TCP/IP で動画を 50 台規模の端末へ流すには限界がある。そのため、CALL 教室では専用線を持つ動画転送装置を導入して動画を流している。しかし、CALL システムを利用する教員の立場からすると、通常の Windows 端末でのシステム管理ソフトの操作に加えて、動画転送装置の操作までも行わなくてはならず、授業進行に影響が出ることもある。そこで、ネットワークでの伝送技術の改良により、システム管理ソフトに動画転送機能を取り込めることが望まれる。

3.3 コンテンツ作成支援システムの研究

大学内に限らず、社会一般にネットワークが広がる現状において、大学の持つ知的資産を、ネットワーク上で利用できる形にする事には大きな意味がある。すでに当部門では、WEB 対応のマルチメディアコンテンツの開発ならびにこのコンテンツの WEB 配信システムについて研究を重ねてきたが、コンテンツの開発には、多くの有能な人材と高度な設備が必要になるため、マルチメディア教材作成にあたって教員をサポートする全学的な支援体制を確立する必要がある。

3.4 遠隔授業システムの研究



21 世紀の授業形式として、遠隔授業・遠隔学習システムが導入されつつあるが、このシステムは、大学内に限らずインターネット利用環境であればどこでも利用できるシステムである。よって、生涯教育の一環としても、多くの活用方法が考えられる。時空の制約を受けずに、ストリーミングビデオやブロードバンドによる動画教材を中核として、学習者個々人のニーズに木目細かく対応できるシステムを確立する。

3.5 WEB対応辞典の開発

外国語を学習する際に、辞典は不可欠である。辞典をひきながらの学習方法ではなく、できるだけ単語調べに時間を取られないで全体を理解することに主眼を置く。辞典をオンライン化し、マルチメディア化することにより、従来の辞典の範疇を越えた、WEB 対応知的総合辞典の開発を進める。また、個人で単語登録をすることができるため、辞書データベースの拡充を行うことができるシステムとなる。

3.6 意味形態論の自動翻訳への応用

従来の自動翻訳とは全く異なる観点から、語感を分析する意味形態論を自動翻訳へと移植することにより、高品質の翻訳結果を目指す。ここで得られる文法解析、意味解析等の成果を、マルチメディアによる外国語学習に応用する。

3.7 外国語コーパスを利用したデータベース開発研究

英語やドイツ語等、インターネットにて提供される外国語データを分析・処理することにより、コンコーダンスを作成する。また、基礎語彙を確定することにより、外国語学習のより効果的な環境を開発する。ESP に代表されるように、目的にあった語学学習が注目されている現代、ジャンルを確定した語学学習のためのコーパス利用、データベース開発を行う。

3.8 英語リスニング力養成のための教材開発研究

三ラウンド・システムの指導理論 (<http://www5e.biglobe.ne.jp/~takefuta/>) に基づいた英語リスニング教材の開発に携わっている。指導の対象者を明らかにした上で、学習者のニーズ、関心、熟達度レベルに合致した教材の開発を心がけている。学習媒体としては、パソコン（インターネットまたは CD-ROM）に加え、デジタル音声および印刷テキストで学習できる教材も制作している。

3.9 英語語彙力養成のための教材開発研究

竹蓋 V メソッドに基づいた英語語彙力養成のための教材の開発に携わっている。こちらも、リスニング教材同様、指導の対象者を明らかにした上で、学習者のニーズ、関心、語彙力に合致した教材の開発を心がけている。学習媒体としては、パソコン（インターネットまたは CD-ROM）に加え、デジタル音声（特に iPod）および印刷テキストで学習できる教材も制作している。本年度は、EAP 語彙 500 語が学習できる Web 対応の教材 Keywords in Use を開発した。

4 2006 年度研究業績

4.1 学術論文誌

細谷行輝, 「ドイツ語とコンピュータの狭間にて」, 『言語と文化の饗宴』, 英宝社, pp.309-318, 2006/03/20

細谷行輝, 「意味形態論的見地より見た
言語本質観」, 『シユンポジション』,
朝日出版社, pp.43-52, 2006/03/31

高橋秀夫, 土肥充, Lorene Pagcaliwagan,
竹蓋順子, 竹蓋幸生, 「学習者の興
味、レベルに適合した CALL 教材
と教材開発支援システムの開発」,
『e-Learning 教育研究』創刊号, e-Lear
ning 教育学会, pp.3-12, 2006/12/31

杉浦謙介, 大前智美, 佐藤 滋, 「携帯プレーヤ
ーを用いた e ラーニング教材作成と配
信の基本的な方法」, 『e-Learning 教育研究』
創刊号, e-Learning 教育学会, pp.46-56,
2006/12/31

4.2 学会発表

竹蓋順子, 「iPod を学習媒体とする語彙学習教材の
開発」, 外国語教育メディア学会 第 46 回全国
研究大会 (京都産業大学), 2006/08/04

竹蓋順子, 「英語リスニング力養成用 Web 教材 Step
Up e-Listening の開発」, e-Learning 教育学会
(大阪大学), 2006/10/21

李 相穆, 曹 美庚, 細谷行輝, 「韓国語 WEB 辞書の
開発」, e-Learning 教育学会 (北海道大学),
2007/03/10

4.3 WEB対応授業支援システムの開発研究

- 1) WEB 対応授業支援システム「WebOCM」の開
発研究
- 2) WEB 対応 Dynamic Menu の開発研究
- 3) WEB 対応 Self Evaluation システムの開発研究

4.4 英語e-Learning教材の制作

竹蓋順子 (コースウェア制作協力), Listen to Me!シ
リーズ「People at Work」千葉大学制作

竹蓋順子 (監修), 『ボキャビルマラソン MUST』
Vol.2-6, アルク, 東京 (2006)

竹蓋順子 (課題制作協力), 「Warm up Track」, 『1000
時間ヒアリングマラソン』アルク (毎月連載
中)

Keywords in Use (英語語彙 Web 教材), 科学研究費

補助金 基盤研究(B)「外国語学習者のための
語彙学習用 Web 教材の開発 (研究代表者: 細
谷行輝)」

5 社会貢献に関する業績

5.1 教育面における社会貢献

5.1.1 学外活動

5.1.2 研究部門公開

以下の行事に際して、言語文化研究科と共同で
CALL 教室公開を実施。

・4月30日 大阪大学いちょう祭

5.2 学会活動

5.2.1 国内学会における活動

日本ドイツ語情報処理学会会長、e-Learning 教育
学会会長、冠詞研究会代表 (細谷) として活動し
ている。また、e-Learning 教育学会理事 (細谷、
竹蓋、大前) として活動している。

5.2.2 論文誌編集

『e-Learning 教育研究』(第1号) 編集 (細谷、竹蓋、
大前)

『言語と文化の饗宴』編集 (細谷)

5.2.1 国際会議への参画

5.2.2 学会における招待講演・パネル

5.2.3 招待論文

5.2.4 学会表彰

5.3 産学連携

5.3.1 企業との共同研究

5.3.2 学外での講演

5.3.3 特許

5.4 プロジェクト活動

e-Learning 教育学会関連のプロジェクト

1. 英語プロジェクト[1]: テスト問題の蓄積と共有
2. 英語プロジェクト[2]: Podcast on WebOCM
3. 独語プロジェクト[1]: テスト問題の蓄積と共有
4. 独語プロジェクト[2]: マルチメディア教材の作成
5. 仏語プロジェクト[1]: マルチメディア仏語辞書の作成
6. 仏語プロジェクト[2]: 仏語フリー教材の収集
7. その他: クォータープロジェクト

5.5 その他の活動

e-Learning 教育学会の開催: 第3回大会 10月21日(於大阪大学)、第4回大会 3月10日(於北海道大学)

CALL 講習会の実施 (2006年度 CALL 教室での授業担当教員・TA向け): 3月31日、4月4、5日、9月22、26日

WebOCM 講習会の実施 (学内向け): 7月6日、9月26日

WebOCM 講習会の実施 (学外向け): 5月26日、7月12日、9月28日、2月16、27日、3月2日

ランチトークの開催 (CALL 授業や e-Learning についての相談や意見交換の場。語学教育とコンピュータについて関心のある教員を対象に昼食を取りながらの意見交換会): 5月26日、6月16日、7月21日、10月20日、11月17日、12月15日、2月16日

2006 年度特別研究報告・修士論文・博士論文

博士論文

大前智美, 「ドイツ語 e-Learning に関する実践的研究ーコーパス研究と構文解析の基盤作りを通してー」(大阪大学大学院言語文化研究科)

修士論文

立花亜季, 「現代ドイツ語における現在完了時称の意味用法」(大阪大学大学院言語文化研究科)
内堀大地, 「海の見方と魚の見方」(大阪大学大学院言語文化研究科)